

RSV下気道炎におけるランダム化比較試験によるIFN- γ 、IL-4、Th1/Th2の変動とプラシラカストの影響

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-05-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 生谷, 真己代 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00033435

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 3187 号	氏 名	生 谷 真 己 代
審 査 委 員 会	主 査 教 授	徳 重 克 年	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>RS ウイルス (respiratory syncytial virus : RSV) は、乳幼児に下気道炎を引き起こし、時に反復性喘鳴の原因となる。ロイコトリエン受容体拮抗薬(LTRA)が RSV 下気道炎の長期予後改善に有効との報告や、RSV 感染後に Th1/Th2 不均衡が生じる報告があるが長期的変動をみた報告はない。月齢 2 か月以上 24 か月未満の RSV 下気道炎入院児を対象とし(基礎疾患のある例、重症例は除外)、無作為に LTRA であるプラシルカストを投与しその影響を検討した。6 か月間プラシルカストを投与したプラシルカスト群 (P 群)、入院中のみ偽薬を投与したコントロール群 (C 群) に分け、入院時、退院時、退院 6 か月後の血清 IFN-γ 値・IL-4 値を測定、フローサイトメトリーにてヘルパー T 細胞中の IFN-γ 陽性細胞(Th1)、IL-4 陽性細胞(Th2)を測定、Th1/Th2 を算出し比較した。P 群 9 例、C 群 11 例、IFN-γ、IL-4、Th1、Th2 は両群で有意差はなく、Th1/Th2 は C 群で上昇傾向、退院 6 か月後の値は C 群の方が有意に高値であった ($p < 0.05$)。これは、P 群に Th 1 機能発達の未熟な低月齢児や Th 2 優位なアレルギー家族歴のある児が多かった影響も考えられるが、プラシルカスト投与が Th1 を抑制する可能性も示唆された。P 群に副作用や、易感染性を認めた児はない。さらなる検討が必要である。</p>			
本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]			